

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100340		
法人名	(株)ティーティーエス企画		
事業所名	グループホームきしの森		
所在地	北九州市門司区吉志7丁目20-28		
自己評価作成日	平成26年6月3日	評価結果確定日	平成26年7月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者、家族、スタッフ、地域の方から「ここを選んでよかった」と皆さんに言われるホームを目指しており、一人一人ゆったりと穏やかな対応を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成26年6月10日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームきしの森」は新門司ICからほど近く、アクセスに優れた場所にあり、一帯を関連施設で運営される敷地の一角にある。田園と緑が広がる静かな場所に立地し、ピンクの外観が人目をひき特徴的で、以前は小規模多機能事業所が隣接していたが、休止のため、今は有料老人ホームとの2箇所が運営されている。場所を知ってもらい、近隣住民に周知してもらうため、情報の発信や見学の機会を増やす等の取り組みで入居者の確保に力をいれている。開設から1年がたち、職員にも心に余裕が出てきており、明るく元気にゆったりとしたサービスが提供できるように、という管理者の意欲が伝わって来る。行事は老人ホームと合同で行うことが多いが、事業所独自の行事として、中庭のテラスで夏祭りや、バーベキュー大会を開催し、近所の方たちも参加されるなど少しずつ地域との繋がりが広がってきている。入居者・家族だけでなく、職員にも「ここを選んでよかった」と思ってもらうことを理念に、今後も地域への存在感を発揮し、事業発展していくことが期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) ○	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) ○
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) ○	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) ○
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) ○	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) ○	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) ○	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) ○	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) ○		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念であるこの場所に、グループホームができて良かったと地域からみとめられるよう、連携を深め利用者が地域の一人として生活できるよう努力している	法人の3施設で同じ施設理念を掲げ、基本方針とともに開設時に作られた。「この場所に」という気持ちを大事に、地域とも関わり、入居者にゆったりと過ごしてもらうことを大事にしている。玄関先にも掲示しており、毎日の話し合いの中でも振り返ってサービスにつなげている。	更に職員と共有し、馴染み深くなるように、掲示場所を事務所やリビングなど目につく場所にも広げたり、唱和の実施や、独自理念の話し合いなどが進められることにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治体にも施設の存在を知ってもらい、夏まつりや菜園を通し日常的ではないが交流が持てるよう努力している	町内会長に依頼して、事業所のパンフレットを掲示板に掲示したり、夏祭りや行事案内なども行っている。廃品回収の手伝いも持ちかけるが、まだ実施には至っていない。菜園の管理は近隣の住民にも支援してもらい、差し入れをもらったり日常的に交流している。市民センターのイベントには入居者と参加し、保育園の慰問もグループ事業所と一緒に受けることもあった。	町内会との関わりを深めるために、町内会加入を検討してはどうだろうか。また、地域に知ってもらい、気軽に訪問してもらいやすくなるように、地域への情報発信や、地域行事の参加、民生委員との協力など取り組まれることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症の方の理解や支援方法を伝えていくよう努めます		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み、活動状況などを報告し会議で出た意見をサービス向上に活かせる努力をしている	以前は小規模多機能と合同で2ヶ月に1回行っていたが、今はグループホームのみで行っている。地域住民、利用者、家族、地域包括などが参加し、会議でのアドバイスからおたよりの作成にもつながった。会議内容は事業所内で共有し、サービス状況報告も行っている。家族には全員に会議案内をし、町内会長にも案内をしているが、まだ参加には至っていない。	会議にあった、地域への情報発信の取組と、民生委員など地域参加が増やされることが望まれる。また、来られていない家族に議事の報告や、会議発展のために、他事業所との相互交流なども検討されてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携を図り、協力関係を築いていくよう努めます	3ヶ月に1回、事業所の情報交換会が開かれており、その際にも相談ができる。地域包括とも連携をとっており、紹介を受けたこともあり、何かあった時の相談なども気さくに行える。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での介助方法を話し合い、内部・外部の研修などから身体拘束の知識を深め身体拘束しないケアを心かけている	日中は施錠せず、夜間のみ行っており、本人の欲求を見極めて外出には見守り、付き添いで対応している。今までに拘束の事例もなく、身体拘束に関しての内部研修や外部研修にも参加し、伝達も行っている。事例は少ないが、拘束行為の理解を少しずつ深め、日頃からも言葉かけなどに注意を促している。	

H26自己・外部評価表 (GHきしの森)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の知識を研修などから身につけていき、虐待の無い介護に努めている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後は外部・内部研修により権利擁護に関する制度の理解に努め、必要性のある利用者については活用できる支援する計画である。	今までに日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用した事例はない。必要があるときには主にケアマネージャーが担当して対応するようにしているが、職員に対しての制度の理解はこれから進めるところである。	制度理解を進めるために、外部研修の参加や、内部研修が開催されることが望まれる。また、制度の説明のためにパンフレットなどの資料が準備されることにも期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の不安や不明な点を話し合い、十分な説明を行うことで理解、納得をしていただけるよう努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との交流時などでの意見や要望などを運営に反映させるよう努めている	運営推進会議や、面会時に家族から意見を聞いており、少なくとも月1回は来訪されている。意見から事業所の周知活動や広報活動につながったこともある。玄関内の掲示で行事案内も行い、敬老会には家族も招いて家族同士の交流ももってもらっている。意見の伝達は申し送りノートを活用して回覧している。	あがった意見の申し送り漏れを避け、所内の伝達をスムーズにするために、入居者担当や家族担当などを決めて、各職員の役割を明確化してはどうだろうか。また、意見にあったおたよりを充実させていくことにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開き、職員が意見や提案を言いやすいような関係を心がけ、運営に反映させるよう努めている	毎月の介護には基本的に全員が参加し、議事録を回覧して欠席者とも共有している。事前にテーマを伝えて活発に意見を出し合い、入居者の状況把握や業務改善につなげている。管理者も現場に入っていることで意見も言いやすく、個別に相談もしやすい。意見から入浴日の設定や、食事提供に関して改善につながった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の努力や勤務状況により、昇給することで各自が向上心を持って働けるようにしている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用対象に性別や年齢にこだわることなく、働く職員が能力を発揮して、生き生きとして勤務できるよう心がけている	20～60歳代と幅広い年代の職員がおり、それぞれが「改善リーダー」「介護リーダー」「物品リーダー」など役割をもって指導にもあたる。レク担当などは月ごとに交替で受け持っている。資格取得などもシフト調整して時間も相互に協力しあっており、職員間のコミュニケーションもよくとられている。	

H26自己・外部評価表 (GHきしの森)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組むよう努力している	人権学習についての資料を事業所内で回覧している。自分の身内に対するのと同じ気持でサービスに当たることを心がけ、理念にもあわせており、日頃から注意している。	事業所としての啓発活動として、人権に関する外部研修や内部研修が行われることに期待したい。また、市などの人権関連団体の資料や情報なども活用されてはどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の力量を把握し、外部研修への参加に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は施設内にある施設と職員との交流に努めている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人家族の不安や要望を聞き、安心していただけるようなサービス提供し、良い関係づくりに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望などを家族来訪時、話を聞かせていただき安心していただけるような関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の理解を得た上で、対応が困難な場合は、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各自の能力に応じた対応を一緒に行うことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも出来るだけ協力していただき、職員と共に本人を支える関係を築くようにしていく		

H26自己・外部評価表 (GHきしの森)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者と一緒に出発時、自宅近郊のお寺などの場所に来る限り出向いていくように支援を行っている	入居時のアセスメントや利用者同士の会話などから関係を聞き出し、行き慣れた自社や、住み慣れた自宅にドライブで行ったりと個別ケアで対応している。家族や友人知人の来訪もあり、自宅外泊したり、美容室に行くこともある。支援して本人に書いてもらった暑中見舞いや年賀状なども送付している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自の性格や感情を理解し、利用者同士が良い関係が持てるよう支援に努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了はまだないが、今後場合に応じ本人家族との関係性を大切に相談や支援に努めていく		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望の把握に努め出来るだけ本人本位の暮らしができるよう検討している	基本的にはケアマネージャーが担当し、日々の情報や本人の思いを連絡ノートで共有し、アセスメントも半年で見なおしている。日々の情報も申し送り、意思疎通の難しい方には家族や友人から聞き取ったり、表情などからも読み取ってアプローチしている。タイムスケジュールに縛られず、その時々の本人の要望を大事にしたケアを提供することを心掛けている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞き取りを行うと共に家族やケアマネからの情報収集を行うようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する能力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中から有する能力等を把握し反映させるように努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるように必要な関係者との話し合いを持ち、意見等を反映した介護計画の作成を行っている	日々の職員からの情報をこまめに吸い上げて、ケアマネージャーがケアプランを作成している。モニタリングは毎月、プランの見直し、担当者会議は半年で行っている。担当者会議は家族にも参加してもらったり、意見を聞き、必要な時は専門職からの意見も頂いている。見直し時期には定例ミーティングで意見を出し合っってプランに活かし、直近の記録とプランは同じファイルで管理することで情報共有につなげている。	入居者を担当制にすることで、さらに職員のスキルアップや現場の意見反映に活かしてはどうだろうか。また、ケアプラン項目の日々の実施チェックを検討することで目標と実施が連動されていくことにも期待したい。

H26自己・外部評価表 (GHきしの森)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入を行い、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいくよう努力していく		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、本人が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援を心がけていく		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるよう支援している	入居時に家族や本人の意向を聞いているが、月2回の往診など医療管理ができる提携医を勧めている。変化があれば、内容を医療ノートに記載し全職員が把握すると共に家族に連絡している。専門医の受診は家族が同行するが、職員が一緒に行くこともある。希望者は週1回の訪問看護で体調管理を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には日々の心身の状態や情報を伝え、指示を受けながら利用者が適切な看護を受けられるように支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療を受けられるよう、訪問看護師とは連絡を密にし、医師との関係作りを行っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にある程度の方向性を話し合い、家族と主治医・看護師と共にチームで支援に取り組んでいけるよう努めていく	終末期の看取りは行っていない旨を入居時に家族に説明している。提携医は月2回の往診だけでなく、急変時は入院可能な別の提携医を紹介している。訪問看護は24時間のオンコール体制で対応できており、何かあれば提携医や家族と相談して対処している。職員の研修は現状では行っていない。	今後は職員の研修を積み重ねる等の対策を講じられ、看取りも可能な事業の展開を目指されることに期待したい。

H26自己・外部評価表 (GHきしの森)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の研修等にも参加したり、実践力を身に付けていけるよう努力していく		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低年一回の避難訓練を行い、消防団や消防署の協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。スプリンクラーや防災カーテンは完備されており、訓練時は消火器等の納入業者が参加して、消火器の使い方等の説明を受け実地訓練も行った。訓練の後、消防署に内容の報告も行っている。救命研修は管理者は受講しているが全体では実施できていない。	今後は、消防署の立ち合いを依頼して、夜間想定訓練を実施されると共に、災害時のアドバイス等も受けれるようにされてはどうか。水分等の備蓄の検討や地域への働きかけを強め、相互に訓練に参加できるような体制作りにも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の力に応じた対応を行っている。また、プライバシーを損ねるような対応にならないよう努めている	言葉かけは、目上の人を敬う気持ちで接し、友達言葉にならないようにすると共に、それぞれの入居者に合わせて個別に対応するようにしている。言われたくない言葉を使わない、否定的な言動は慎むなどの対応をしている。入浴時の施錠やトイレのドアの開閉などプライバシーを大切にしている。	入居時に、利用者の写真の活用も含めて、個人情報の取り扱いについての同意書を取り交わされてはどうか。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望で自己決定をしている。また、表情やしぐさなどからも自己決定に近づけるような努力をしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ自分のペースで一日を過ごしてもらえよう利用者の都合を優先するよう心がけている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るよう個々の力に応じ支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の力に応じ、出来ることをしていただき、職員と一緒に準備をしている	ご飯は事業所で炊飯しているが、惣菜は、併設の老人ホームで作られた物が運ばれて来るので利用者と一緒に盛り付けている。行事食で刺身を提供する事もある。月に1回はクッキングレクを実施し、お好み焼きやテラスでの焼肉会など、職員と一緒に楽しんで貰っている。外食レクも喜ばれているので今後も計画的に進める考えである。	

H26自己・外部評価表 (GHきしの森)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分量を把握できようしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンに応じた声かけ誘導を行い、できるだけ排泄はトイレで行えるよう支援している	排泄チェック表に基づき、2時間を目途に、個人のパターンに合わせてトイレ誘導を行っている。夜間はオムツを使用している人も、昼間はできるだけトイレでの排泄ができるように心掛け、残存機能の維持及び自立を目指した取り組みを行っている。便秘対策としては、下剤や水分摂取で調整している。	自立に向けた取り組みを進める為に、職員間で定期的に改善の為の話し合いを行い、利用者の経済的な負担軽減にも配慮がなされるように期待したい。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便秘の原因や及ぼす影響を理解し、運動などを働きかけ等、個々に応じた予防に努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している	本人の体調に合わせて、9時半から隔日に入浴して貰っている。入浴剤は皮膚が弱い人に考慮して使用していないが、柚子湯や菖蒲湯等の季節湯は楽しんで貰っている。拒否される人には無理強いせず、翌日にしたり担当を狩る等の工夫をしているが週に1回は入浴して貰えるようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は共有スペースのソファで自由に休憩を取って頂き、夜間は入眠状況の確認を行い、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの力に応じた服薬支援を行い、症状の変化の確認を行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある生活を送れるよう、個人の希望に添った気分転換等に対応できるよう支援している		

H26自己・外部評価表 (GHきしの森)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り、本人の希望にそっての支援を心がけている。施設内散歩・テラスにて日光浴など本人に負担がかからないように支援している	気候が良い時は近くの神社や公園に散歩に出たり、園内を散歩する等、できるだけ日光を浴びて貰っている。月1回を目途に外出レクを実施し、シルバーカーや車椅子も準備して、初詣や花見、門司港レトロのイベントなどに出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が不十分な方には、家族と相談の上で所持するか検討する		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望にそって電話や手紙のやり取りができるよう支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ利用者の不快感の減少に心がけ、季節感や生活感を感じて頂けるように工夫している	木目のフローリングはスペースも十分で終日、明るい陽射しが差し込んでいた。広い空間のベランダでは、テラスでコーヒータイムをとったり、バーベキュー大会をして楽しんで貰っている。毎年、軒下にツバメが巣を作って飛んでくるので、その様子に利用者の心が和まされているという。中庭には季節の野菜が植えられていて近所の人が通りかかって水やりをされることもある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや食堂にて自由に過ごしていただける場を設け、なるべくその人の居心地のよい場所になるよう工夫している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みの物を置いて頂き、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している	ベッドや布団は持ち込みも可能である。机や好みの椅子など使い慣れた家具が置かれていた。壁には職員が手作りで毎月作っているカレンダーや、行事の時の写真、絵画や自筆の習字などが飾られていて、居心地良く過ごして貰える工夫がなされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力に応じた行動を見守り、安全に過ごせるように工夫している		